

4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 3 年度目（令和 6 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		3,046	t-CO ₂
（温室効果ガス換算）	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）		3,046

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	原単位排出量
------------------	--------

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績		
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
温室効果ガス総排出量		t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂	t-CO ₂
削減率（対 基準年度）			%		%	%
温室効果ガスみなし総排出量			t-CO ₂	t-CO ₂
削減率（対 基準年度）			%	%

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績			
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	
原単位あたりの排出量	68.17	kg-CO ₂ / m ²	66.12	kg-CO ₂ / m ²	69.78	kg-CO ₂ / m ²	70.85	kg-CO ₂ / m ²
削減率（対 基準年度）		3.0	%	▲ 2.4	%	▲ 3.9	%
原単位あたりのみなし排出量			kg-CO ₂ / m ²	kg-CO ₂ / m ²	
削減率（対 基準年度）			%	%	

（2）進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

天候による熱負荷は前年度と比較して微減したように思われるが、コロナ禍の収束に伴うリバウンド需要により来客数が増加し、飲食テナントの稼働率・熱負荷・消費水量が増加した。それに比例して各冷凍機械の電力量、クーリングタワーの消費水量が増加したため、最終的にはエネルギー・水量ともに改善に至らなかったと思われる。尚、照明器具のLED化が進み、LED化による削減余地が少なくなっている。

備考 1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考 2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考 3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。

備考 4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

指針第2号様式

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 3 年度目（令和 6 年度）における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
電力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値（クレジット等）の活用の状況

計画期間 3 年度目（令和 6 年度）におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量（みなしの削減量）の合計

t-CO ₂

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

<ul style="list-style-type: none"> ・紙資源節約 ペーパーレス推進、OA用紙裏紙使用、両面印刷推進、配布から回覧方式への推進。 ・用度品節約 節約教育の徹底と定量管理推進、用度品再生素材利用推進。 ・テナントリモデルによる什器照明のLED化
--

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況